

# 1995. 10. 24 日触観測報告

高橋 知

## □観測地：

- ・タイ国ナチャンラコシマ (Nakhon Ratchasima) 郊外コンブリ (Khon Buri) 付近
- ・東経102° 05' 21" 北緯14° 33' 20" (ツアーパンフレットより)

…コンブリはナコンラチャシマよりほぼ南へ60kmほどいった場所です。ただし、街中ではなく郊外の個人の別荘地内での観測で地図上での詳細な位置は不明。緩やかなスロープのある見晴らしの良いとても広い敷地（ボートがある池まである）は、基本的には芝生で覆われておりその中にオーナーの別荘やコテージが散在しコンクリートの幅1m50cmぐらいの道がはしっている（この道に多くのメンバーが陣取った）。動物園でみるような小鳥を飼っている大きなケージや、10頭ほどの牛が飼われている柵がある。

## □参加ツアーと人数：

- ・JTB主催天文ガイド協賛のツアー（渡航期間4日、5日、7日の3コース）
- ・参加者に配付された参加者名簿によれば添乗員や天文ガイドスタッフ等を含めて132名（3コースの合計）
- ・観測地のオーナーとその家族や親戚など約10名

## □当日の様子など：

- ・皆既食中の天候は『4』※1

～残念（申し訳ありません）なことに時刻記録用のマイクロカセットがセットミス（A面とB面を逆にセットしてしまった）のために作動せず正確な時間経過が全くわかりません～

10月24日朝4:30に起床、意外に外はまだ暗いが天気は良い。23日日中は非常に天気がよくほとんど雲がなく、“梅雨あけ10日”ではないが雨期があけた直後（まだ明けていないという話もあったが）で晴天が続くらしいということもありほとんど心配はしていなかった。朝食時に23日夜に現地で見えてきた人達によれば夜も天気はよく、また思ったより水蒸気の影響もなく良好だったとのこと。

7:00ホテルを出発。このころになると筋状の群れをなした雲が東の低空あたりから広がってきている。7:45ごろ観測地に到着、東側から雲が次々と沸き上がるようにして流れているがまだ雲量は4程度で「皆既までにはなんとかなるだろう」とみんな思っている。

8:30ごろ（？）よりスタッフが太陽面をプロミネンスアダプターで観測しはじめるが、残念

ながら目立ったプロミネンスは見られずわずかにごく小さなものが一つあるのみ※2（順番に何十人もが代わる代わるに望遠鏡を覗いたが「わからない」という人が多い）。雲はだんだんと増えてきてプロミネンスを覗く人達もしばし中断を余儀なくされるが増えてくる。

このような状況の中で第1接触開始！。しかし雲はますます増え雲量は8～9に達する。我々の陣取った場所の目の前は2～3m離れて牛が囲われた柵があるが、牛達は第1接触の始まる前から大勢の人間達にいつもと違う雰囲気を感じてかすではなれた角に集まっておとなしい。地面に座り込んでいる。10:30前後、雲は最悪の状況になり、触分の進む太陽で望遠鏡の最終ピントチェックをしようとするが太陽が隠れている時間が多く時々切れ目からのぞくような状態になってしまい、「これはひょっとしたらだめかもしれない」と周りのメンバー皆表情が暗くなって口が重くなっている。そんななかで無情にも第2接触の時間が刻一刻と迫ってくる。牛たちは全く変わらず隅で座り込んだまま。

10:50を過ぎ第2接触の秒読みが始まった。周囲はNDフィルターをかけたように色はあるのだが暗くなっている。しかしまだ雲がある。「いよいよだ」と思うと同時に「だめなのか？」と悲鳴にも似た声が誰からとなくもれている。と、そのとき太陽の東側にぽっかりと雲の切れ目が近づいてくる。「よしっ、こい！」祈りにも似た声上がる。「第2接触です。」直前に幸いにも雲の切れ間に太陽がかかりはじめ、最初のダイヤモンドリング！そして皆既スタート！「やったっ！」今度は歓声と歓喜の叫び声だ。モータードライブとシャッターの音だけが響いている（のだと思うが自分も夢中になっているので定かではない…）。事前に東西方向へのコロナの伸びの予測を教えてもらっていたので画角の長辺方向をそれに合わせていたつもりだったが、ややずれているのを6駒撮影したところで気づき慌てて修正、そのまま撮影を続行。秒読みが続いている。20駒撮影したところで心と空を見上げて肉眼で太陽を見た。真珠色のリングが空にかかっている。左下にはやけに明るく金星が見えている。今なら太陽の大きさが肉眼でも簡単にわかる。太陽のあたりに太陽が通常のものであるとわからないかもしれないようなごく薄い煙のような雲があるのが認められた。その瞬間、コロナの一点がきらっと光った。「月の谷間から太陽がちょっと顔を出したのかな…」などと思っていると光の点はどんどん大きくなる！「第3接触です」無情のアナウンス。「え～！」あちこちから不満と驚きの声が上がっている。慌ててシャッターを切るが見事に第3接触のタイミング若干を逃してしまった。※3　なんと時間のたつ早いこと。ほんともう2分弱たったのか??　でもなんてきれいなダイヤモンドリング!!　急速に太陽が眩しさを増し、あたりが光を取り戻している。ぱちぱちという拍手が起る。4年前のメキシコの時よりも人数ははるかに多いのに今回はなぜか寂しい拍手だ。やはりこの時間の短さにみんなとまどいと不満を隠せないのだろう。11:15ごろ、座っていた牛が歩きはじめている。それにこのこのオーナーが飼っている大きな鳥小屋の中の数十羽のインコなどが鳴き声をあげているのに気づいた。しかし、牛はこの後も座たり歩いたりを繰り返す、日食との関連は残念ながらよくわからなかったが、少なくとも群れ固ま

っていることではなくなった。この後、しばらくして再び雲が断続的に来襲し、連続撮影している人達は苦労している。

※1：肉眼（裸眼）でも望遠鏡直焦点（ $f = 700\text{mm}$ ）でも外部コロナを確認している。自分ではいつからあったのかわからないが、実際には細くて薄い雲が何条が存在していた。この雲の影響は、私の場合写真でも影響はほとんどないと思われるので、日食天気階級は4としたが、撮影システムによってはコントラスト低下やハロを生じている可能性もある。この場合は3.5程度と推測されるが、同地点での観測で階級がずれる場合はどのようにして決めて行けばよいかは今後の課題か。（あるいはこの場合はいろいろなシステムがあることを考慮に入れて、コンプリ地域の日食天気階級は『3～4』とするのがよいかもかもしれない）

※2：撮影した写真上からは少なくとも2箇所からのプロミネンスが認められる。微かなものがもう一つあるようにもみえる。ただし、私の写真上ではすでに太陽の縁が月からのぞき始めており本当のところいくつかなのかは断定できなかった。

※3：第3接触の方が目が暗さになれているので第2接触よりはきれいに見える、と言われていた。もちろんそのようなことはあるとは思いますが今回はそれ以外にも「第2接触時には薄雲が残っていた」こともあると思われるし実際に写真上で見てもどうもダイヤモンドリング（として肉眼で認識できている）の継続時間が長いようにも思われ、非常に見事なものだという印象がある。このあたりはビデオで連続撮影していた方々からの報告に注目してみたい。